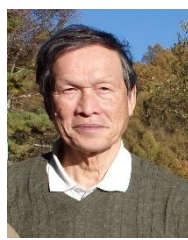


## 京葉会新聞

第9号

## 私とゴルフの付き合い

京葉会世話人代表 長嶋良一



長い猛暑も終わりそうですが皆さまはお元気で過ごすごでしょうか？ 私は人から「趣味は？」と聞かれると「ゴルフ」と答えます。ゴルフはもう約半世紀にわたり嗜んでいるスポーツです。ゴルフは自分の技量と向き合いメンバーと一日楽しくコースを回ることが出来ます。これは野球・サッカーなどの団体競技やテニス・卓球などの対抗競技にはない良さです。広大な芝生の上を一万歩以上も歩くのは健康にはもちろん良いですし、コロナ禍でもゴルフ人口が減るところか新しく始める若者が増えたとも聞きます。その一方、私の周りでは年齢や腰や肩の故障などでゴルフをやめる人が徐々に増えてきました。私もいよいよ「ゴルフじまい」が近いと思いますが、健康寿命のあるうちはもう少し続けていきたいと考える今日この頃です。

さて「京葉会新聞」も次号(来年一月発行)で10号を迎えます。より親しみやすい紙面になりますよう新入会員の紹介や会員の皆様からの生きたりやシニアライフの過ごし方などの寄稿を載せていきたいと思っておりますのでよろしく願います。

## 尺八について(二)

菊田 宏



ここで尺八の歴史について概略語って置こう。尺八は標準の管長が一尺八寸であることに由来し、中国・唐の貞観年

間に呂才が考案したのが始まりと言われる。日本には雅楽楽器として7世紀末頃に伝来し、正倉院には六孔三節の尺八がある。この尺八は平安中期には途絶えるが、室町時代になると一節切(ひとよぎり)と呼ばれる縦笛が現れた。一節切は中国から来た禅僧・蘆安がもたらした真竹の中間部の一節を用いる。17世紀後半に全盛を迎えたが、新しい普化尺八の隆盛と共に急速に衰退して19世紀にはほぼ絶えた。普化尺八は16世紀に日本で開発された。真竹の根元部分から7個の節を含むように作られ、管長54・5cm、直径4cmで指孔が前面4・後面1の5つである。江戸時代には尺八は法器として普化宗に属する虚無僧のみが演奏し、幕府の法度によって保障されていた。ただ、一般の人でも尺八を嗜むものも多く江戸中期に黒沢琴古によって琴古流が創始された。明治時代に入ると普化尺八は政府により禁止され、虚無僧は尺八の師匠などに転じた。普化宗廃止後も琴古流の荒木古童などは尺八の普及に尽力して東京を中心に全国に普及させ、これが今日の尺八界の礎となった。(次号に続きます。)

## 戻って来たブローチ

ペンネーム 夢見瑠夢子



もう40年程前になるが、カトレアをデザインした木彫りのブローチを作った。私にしては良い出来栄えと自己満足しつつ、何か特別な日には胸元に飾るようにしていた。先日そのブローチを久しぶりに着けて出かけたのだが、生憎の突然の強風と雨で、慌てて傘をさした時に外れてしまったらしい。途中で気がついて後戻りして探したのだが見当たらず、その後も毎日探したのが見つからなかった。諦めるしかない……

そう思っていたのに、それが何と八日目の朝、いつものジョギングに走り出そうとした時、探していたブローチが落ちていたのだ。何か狐にでもつままれたような不思議な感覚。幾ら考えても不思議でならない。あれ程、探していたのにつからなかったものが何故？ 自分で落として自分で拾ったブローチを何度も手に取って眺めながら、「どうして？」ブローチに問いかける日々が続いている。



京葉会新聞への投稿を募集しています。日々の出来事等、何でも結構です。皆様のご協力をお待ちしております。

初級



数独に挑戦！（正解は次号）

7			4		6			
1			2		9	6		
2	6			5			7	
		4		9				
		3				1		8
				1	5			
3	7		5		2	9	8	
	5	2			7	4		3
	8				1	7		2



モンローを壁から外し  
初デート

独り者背中をかいてくれる壁  
洪水の壁の水位を忘れまじ

「壁」

稲景 浅沼

川柳

文芸欄

## 京葉会イベント案内



3/24 庭園美術館にて  
「のんびり一休み中の鴨」

撮影者（増田）

—今後の予定—

10/2（木）落語鑑賞会（上野鈴本演芸場）

11/21（金）市川市東山魁夷記念館見学

12/10（水）京葉会サロン

発行元 京葉会

発行責任者 長嶋 良一

連絡先 080-1082-5598

メール [step0214.jp@yahoo.co.jp](mailto:step0214.jp@yahoo.co.jp)

★メールアドレス未登録の方は上記連絡先か  
上記のメールアドレスにご連絡お願い致します。

(QRコードの会員登録からも登録可能です)



## 円空仏と五百羅漢像に魅せられて2！

久保 博俊

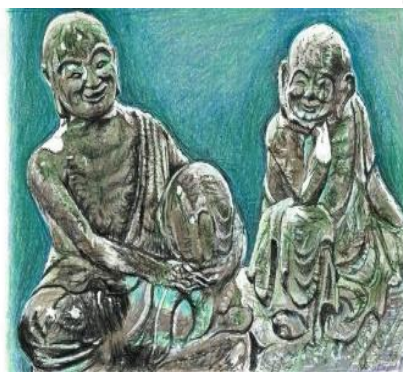


円空仏は鉋で豪快に彫った木彫が魅力的ですが、現在は川越大師喜多院の五百羅漢をほぼ毎日わずかずつですが仕上げています。そもそもは退職後に時間を持て余したくないと考えていた時に、ある有名俳優のスケッチ集「東京散歩」を見たのがきっかけです。昔は油絵や水彩画をいじった時もありましたが、長続きしませんでした。画集を見てこんなスケッチ描ければなと思ったのが始まりです。

最初は国宝の建造物や四国八十八か所、都内風景や次第やったためのでブログに入す。円空仏は出生地院などに多くが残されています。



人物画など手当たり相当な枚数になったりもして、いまの岐阜や名古屋の寺院などに定期的に公開されています。



喜多院の五百羅漢は500体以上、大きき数十センチの石像ですが、江戸末期からほぼ200年も屋外にあるため風化や苔むしで細かい所が分りにくい像もありますが、そこはある程度想像です。なにしろ数が多いので、何回か喜多院に通って撮影して持ち帰って自宅で仕上げています。

